

南山 宗教文化研究所

Nanzan Institute for Religion & Culture

南山宗教文化研究所 研究所報

第 12 号

2002 年

もくじ

はじめに	ポール・スワンソン	3
第11回シンポジウム「宗教と社会問題の あいだ」 オリエンテーション	ロバート・キサラ	4
せめぎあう健やかな心と病める魂	堀 雅彦	10
書評特集 島園進『ポストモダンの新宗教』を読む はじめに	奥山倫明	26
書評 1 現代宗教の理解における「ポストモダン」 概念の有効性をめぐって	伊藤雅之	29
書評 2 島園進『ポストモダンの新宗教』における ナショナリズム論	奥山倫明	36
書評 3 島園進の近代宗教史研究に寄せて	林 淳	42
宗教運動から近代をとらえる 三氏の書評に答えて	島園 進	46
甲辞 武内義範先生の遺徳を忍んで	ヤン・ヴァン・ブラフト	54
トマス・インモース師の遺徳を忍んで	渡邊 学	57

読みたい項目をクリックしてください

旧師旧友	60
昨年の行事	63
スタッフの研究業績	68
<i>Japanese Journal of Religious Studies</i> Vol. 28 (2001) の目次	77

はじめに

今年度、研究所にとってもっとも重要な行事は、第11回南山宗教文化研究所シンポジウムでした。「宗教と社会問題の あいだ」をテーマにして、3月11日～13日に本研究所で開催されました。宗教学者のみならず、弁護士やジャーナリストを含め、「社会問題」となっている「宗教」をとりあげ、活発な議論が展開されました。その際、ロバート・キサラ所員が「オリエンテーション」を担当しましたが、その論文が巻頭に掲載されています。なお、シンポジウム全体の報告書は、年末までに青弓社から出版される予定です。

また、研究論文等としては、堀雅彦研究員のウィリアム・ジェームズに関する論文と、島蘭進の近著『ポストモダンの新宗教』を徹底的に議論した合評会の成果を掲載しました。それぞれユニークな内容のものですが、読者のお役に立てれば幸いです。

最後に、宗文研を長年支えてくれました二人の恩人 竹内義範先生とトーマス・インモース師 への弔辞を掲載しました。

今年の *Bulletin* (26号) は日本語版と多少異なり、シンポジウムの概要の他、論文として奥山倫明「近代日本における宗教的ナショナリズム」、ジェームズ・ハイジック「ラテン・アメリカからのレポート」、と前川理子「現代宗教の政治と文化」を掲載しています。日本語の『所報』と英文の *Bulletin* はいずれも宗文研のホーム・ページ (www.nanzan-u.ac.jp/SHUBUNKEN/) でご覧になれますので、ぜひご参照ください。

昨年9月11日の同時多発テロによって、新たに「宗教」と「暴力」、「社会問題としての宗教」が浮き彫りになりました。諸宗教対話と相互理解を目的とする機関としての研究所の活動が、微力ながら宗教と社会の相互理解につながることを祈ります。

2002年5月15日

所長 ポール・スワンソン

研究所のスタッフ (2002年4月現在)

第一種研究所員	第二種研究所員	研 究 員	コピー・エディター
James W. Heisig	梁 暁 虹	堀 雅 彦	Clark Chilson
Paul L. Swanson	藤本哲史	長谷千代子	
渡 邊 学	Philip Muncada	非常勤研究員	
Robert Kisala		石脇慶總	保呂篤彦
奥山倫明		岩本明美	寺尾寿芳
		平島(奥村)みさ	Tiziano Tosolini

昨年の行事

2001年4月～2002年3月

2001年

- 4月6日 Richard Seager (Hamilton College)、Robert Eppsteiner (Boston Research Center for the Twenty-First Century)、Sumimoto Tokihisa (Research for Soka Gakkai International) が来所し、Richard Seager による創価学会に関する最近の調査プロジェクトについて相談を受ける。
- 4月9日 Tiziano Tosolini が来所。1年間滞在して日本の哲学及び京都学派の研究を行う。
- 4月9-30日 アムステルダムの Vrije Universiteit で神学・哲学部の宗教学教授を務める Hendrik Vroom が来所。3週間滞在して宗教間対話と仏教における神の観念についての研究を行う。
- 4月20日 日本における価値観調査の実施と分析の補助として、研究所（代表者 R. Kisala）が文部省科学研究費（3年間で15,200,000円）を助成されるとの通知が届く。
- 4月19-22日 奥山倫明が London School of Economics で行われた “The Spiritual Supermarket: Religious Pluralism in the 21st Century” についての国際会議に出席し、村上春樹と大江健三郎について発表（*Bulletin* 25を参照）。
- 4月22日 Victor Horiが来所。『禅林句集』の英訳完成のため、3ヶ月滞在。
- 5月19日 Erin McCarthy (St. Lawrence University)が来所。2～3週間滞在して、和辻哲郎の研究を行う。
- 5月21日 James Heisig の新著 *Philosophers of Nothingness* が出版元の University of Hawai'i Press から届く。
- 5月26日 研究所でEGSIDの会合が開かれ、NCC 宗教研究所、上智大学キリスト教文化・東洋宗教研究所、オリエンズ宗教研究所の代表者が参加。Martin Repp が “Hōnen and the Structure of Religious Reformation” について研究報告を行う。
- 5月28日 Claire Wolfteich (Boston University School of Theology)が研究所を訪問し、“Church and Theology in the Contemporary World” に関するプロジェクトについて協議。

- 5月31日 山口広弁護士を迎え、「宗教法人問題連絡会の日弁連「判断基準」批判についての争点」というテーマで懇話会を開催。これは第11回南山シンポジウムに先立つ一連の懇話会の第4回目にあたり、26名が参加した。
- 6月8日 第16回研究例会が開催される。平島（奥村）美佐が「三日月と十字架のもとにマレーシアにおけるキリスト教とエスニック・アイデンティティ」というペーパーを発表。16人が参加。
- 6月11日 Gereon Kopf が来所。2～3週間滞在して研究を行う。
- 6月16-17日 東京で開催された「宗教と社会」学会に Robert Kisala、渡邊学、奥村倫明が出席。
- 6月23日 Robert Kisala と Clark Chilson が上智大学で開催された Asian Studies Conference Japan に参加して、「隠された宗教性」に関するパネルで発表。
- 6月29日-7月1日 東京大学で開催された印度学仏教学会の年次大会に Paul Swanson が参加し、仏典の翻訳の問題について発表。
- 7月2日 2000年度の *Bulletin* 25 と『所報』11号が印刷所から届く。
- 7月5日 奥山浩基が所員セミナーで、本人の調査に基づき、「コーサンビー争論説話の展開」というテーマで発表。
- 7月6-9日 東京大学史料編纂所主催で開かれた“International Symposium on Historical and Buddhist Sources in Japan”に Paul Swanson が出席。
- 7月17日 Princeton University 自然科学部高等研究所、天体物理学教授 Piet Hut が昼食に立ち寄り、科学と霊性について活発な議論を行う。
- 7月19日 Institute of Buddhist Studies in Mountain View (CA) の学部長 Richard Payne が研究所を訪問し、南山のガイドブック・プロジェクトについて協議。
- 7月23-25日 Paul Swanson と渡邊学が京都で開かれた東西宗教交流学会の第20回年次大会に出席。
- 8月3日 Scott Schnell (University of Iowa) が研究所を訪問し、将来南山に滞在して研究を行う可能性について協議。
- 8月27日 Robert J. Kisala、Mark R. Mullins 編集の *Religion and Social Crisis in Japan: Understanding Japanese Society through the Aum Affair* が出版元の Palgrave から届く。
- 8月31日-9月8日 SVD の所用ため、Robert Kisala がオーストラリアのメルボルンへ出張。
- 9月10日 James Heisig がスペイン、バルセロナでの1年間の研究休暇と、ラテンアメリカでの5ヶ月にわたるレクチャー・ツアーから帰国。
- 9月14-16日 久留米大学で開催された日本宗教学会の第60回年次大会に参加するため、Paul Swanson、Robert Kisala、渡邊学、奥山倫明が九州に出張。Kisala、渡邊、奥山が発表し、Paul Swanson は『宗教研究』の編集会議に出席。この大会期間中に年刊の JJRS の審議会 (advisory board meeting) が開かれた。

- 9月17-25日 Institute of Philosophy of the Romanian Academy からの招待を受けて、奥山倫明がルーマニアを訪問し、国際シンポジウム “ Mircea Eliade in Eternity” において Mircea Eliade に関するペーパーを発表。
- 9月21日 香港の Institute of Sino-Christian Studies の Academic Director である Liu Xiao-feng 夫妻が研究所を訪問し、アジアにおける宗教間対話に協力する方法について協議。
- 9月24日 Robert Kisala が日本カトリック神学会年次大会のシンポジウムに参加し、「多元的 社会における教会の使命と役割 諸宗教の場合」というテーマで発表。
- 9月27-30日 華梵大学の招待により、Paul Swanson が台湾に出張。天台学会が主催した天台研究に関する第4回大会の基調講演を行う。
- 10月1日 ソルボンヌ、École Pratique des Hautes Études の Directeur d'études である Dr. Jean-Noel Robert が編集会議と昼食のため研究所に立ち寄る。
- 10月1-3日 オーストラリアの University of Notre Dame School of Philosophy and Ethics の研究科長を務める Brian Mooney が研究所を訪問し、日本の神道と仏教における倫理と自殺の問題について討論。
- 10月14-28日 SVD の所要と、それぞれ1週間にわたる2つの大会に出席するため、Robert Kisala が印度に出張。ムンバイで10月15-19日にわたって開催された ASPAMIR (SVD Asian-Pacific Association of Mission Researchers) 主催のシンポジウムと、10月24-28日にわたって開催された “ The Church in Mission: Universal Mandate and Local Concerns” に関するコロキウムに参加。
- 10月15日 University of Notre Dame Erasmus Institute 所長 James Turner が研究所を初めて訪問し、将来の相互協力の可能性について協議。
- 10月19日 フォトジャーナリストの藤田庄市を迎えて「「信教の自由」から「精神の自由」へ-カルト取材を通してみえてきたもの」というテーマで懇話会を開催。これは第11回南山シンポジウムに先立つ一連の懇話会の第5回目にあたり、17人が出席した。
- 10月26日 第17回研究例会が開催され、愛知学院大学の伊藤雅之が「あたらしい霊性文化のグローバル、ローカルな次元 和尚ラジニエシ・ムーブメントの事例を通して」というペーパーを発表。11人が出席。
- 11月8日 大正大学助教授、弓山達也を迎え、「宗教と カルト のあいだ」というテーマで懇話会を開催。これは第11回南山シンポジウムに先立つ一連の懇話会の第6回目にあたり、17人が出席した。
- 11月16-20日 Paul Swanson, Robert Kisala、渡邊学、Clark Chilson がデンバーで開かれたAARの年次大会のため、アメリカ合衆国に出張。
- 11月25日-12月7日 James Heisig がヨーロッパに出張。アムステルダムの Porticus Founda-

tion で講演を行った。

12月26-27日 Paul Swanson が京都で開かれた CORMOS の第48回年次集会に出席する。

12月27日 島園進を研究所に招待し、本人の新著『ポストモダンの新宗教 - 現代日本の精神状況の底流』についての討論会を行う。この本について愛知学院大学の伊藤雅之、林淳、南山宗教文化研究所の奥山倫明がコメントし、島園がこれに応答した。16名が参加。

2002年

1月13-14日 Paul Swanson が大阪に出張し、ザベリオ会のシンポジウムで仏教に関する講義を行う。さらに東京で、“Science and the Spiritual Quest”に関する東京シンポジウムのための組織委員会の会合に出席した。

1月15-19日 生命山カトリック別院の Maria De Giorgi が研究所を訪問し、仏教と宗教間対話に関する研究に従事。

1月17日 甲南女子大学人間科学部教授、芦田徹郎を迎え、「イエスの方舟とオウム真理教 「わかる」と「わからない」の あいだ について 」というテーマで懇話会を開催する。これは第11回南山シンポジウムに先立つ一連の懇話会の第7回目にあたり、20名が参加した。

1月24日 韓国の慶星大学教授で客員研究所員でもある金承哲が所員セミナーで、自己の研究テーマに基づき「韓国キリスト教の自己理解と宗教間対話」について発表。11人が参加。

1月28-30日 渡邊学が大阪と東京に出張し、相国寺の大本山では「カルト 問題の反省と展望-オウム真理教問題を中心に」というテーマで、上智大学のカトリックセンターでは「現代青少年の宗教意識と人間教育の課題」についてそれぞれ講演した。

2月22日 Paul Swanson, Robert Kisala, Clark Chilson が東京に出張し、上智大学の Monumenta Nipponica 主催による “English-language Scholarly Periodical Publishing in Japan Workshop 2002” に出席。

3月1-5日 渡邊学がジョージア州アトランタに出張し、American Academy of Religion Committee on International Connections に委員として出席。

3月11-13日 第11回南山シンポジウムが「宗教と社会問題の あいだ 」というテーマで開催され、14名のパネリストのほか、50名を越える参加者があった。

3月23日 長谷千代子が2年間の任期で、研究員として来所。

3月17-30日 研究所の所用のため、James Heisig と Paul Swanson がニューヨーク、バルセロナ、ヴェニスに出張。

3月24-27日 Robert Kisala が韓国に出張し、価値観調査についてと、これと同様の調査を韓国で実施する可能性について協議。

その他の訪問者

2001年

- 4月13日 Claudia Romberg, Research fellow and Ph. D. candidate, Vrije Universiteit (Amsterdam).
- 5月14日 John Harding, Ph. D. Candidate, University of Pennsylvania.
- 5月28日 John F. Griffin, financial analyst.
- 7月7日 山部能宜・九州龍谷短期大学教授。
- 8月21日 Dr. Thomas Hentrich. カナダ・モントリオールの神学者。
- 9月13日 Ian and Dorothy Reader, Lancaster University.
- 11月5日 Dr.J. Preisinger, ドイツ連邦共和国総領事。
- 12月14日 James Mark Shields, Ph.D. Candidate, McGill University.

2002年

- 1月13-14日 東馬場郁生、天理大学講師。
- 2月11日 Prof. Doyen Philippe Capelle. President de la Conférence Mondiale des Institutions Universitaires Catholiques de Philosophie, and Faculté de Philosophie of the Institut Catholique de Paris.
- 3月6日 水野友晴、Curtis Rigsby、Kevin Lim (林永強)。それぞれ京都大学大学院哲学研究室に在籍。